

6月9日（木）県立彦根東高等学校を訪問しました！

対談テーマ

学びを深める教育活動と県立高等学校の魅力化について

生徒の学びを深める多彩で特色ある教育活動を視察し、学びの個別最適化による学力の育成や県立高等学校の主体的な魅力化の取組について対談しました。

訪問した委員

土井 真一 委員 岡崎 正彦 委員

県立彦根東高等学校について

国の「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業」のカリキュラム開発拠点校としての取組や、先行的なBYODによる1人1台端末環境を導入しての授業実践など、文理の枠を越えた幅広い教養を育成する特色ある教育活動に取り組んでいます。



意見交換より

委員：将来的には自分自身でタブレット等の端末を使いこなしていくことが求められることを見据えて、生徒たちに、端末の使い方をできるだけ任せてはどうか。

学校：今後は、指示を待つて使用するのではなく、状況に応じて、自分で工夫して活用できるように進めていく。



委員：湖南地域等から彦根東高校を志望する生徒の動機はどのようなものか。

学校：県内各地から生徒が集まっているが、一人ひとりお互いを尊重して、学業や部活動において切磋琢磨して自分の力を伸ばしたいと考えている生徒が多いと承知している。

委員：生徒に選択される学校となるために、単独ではなく、周辺の高校との連携によって、それぞれの強みを組み合わせていくことも有効だと思う。

委員：これまでSSHなどの取組で育成した人材について、卒業後の活躍等は把握しているのか。また、後進の学びへの還元があればよいのではないか。

学校：例えば、国際協力機構（JICA）で働く卒業生が、高校生に講話をするなどのつながりがある。

委員：先輩の活躍する姿を感じられることで、子どもたちの進路選択の明確化や学習意欲の向上につながるよい取組だと思うので、今後も充実を図ってほしい。